

白老に流れる 新しい風

白老文化観光推進実行委員会

白老文化芸術共創 - ROOTS&ARTS 今年も

文化の振興を観光振興と地域活性化につなげよう - と活動する同実行委。3年目の今年は、これまで積み重ねてきた成果と課題を踏まえ、9月から町内全域で展示や催しを繰り広げます。予定する企画は、招へいアーティストが地域資源を素材に作品を制作し発表する「展覧会とプロジェクト」、地元アイヌ民族の方と連携した展覧会や参加体験プログラム、白老在住で国内外から評価のある作家・田湯加那子さんの展覧会、白老や胆振地域の原料・素材により制作された民芸品の展示・販売、「伝統と創造、音、食、市」をコンセプトにした昼夜イベントなどを検討しています。また、取り組みの地域への広がりを考え、今年は白老の文化・観光を堪能できる町民向け見学会を下記の要領で実施します。ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。



白老おもてなしガイドセンターの案内で巡る「文化芸術見学会」

日程 9月3日(日) 10時30分～14時 ポロトミンタラ集合で大型バスによる移動。
内容 旧社台小校舎で開催する「田湯加那子展覧会」ほか、町内に点在するアートスポットを見学します。
参加費 大人1,000円、小中学生500円 ※昼食代と保険料 定員 25人
申し込み・問い合わせ 同おもてなしガイドセンター (☎82-2216、白老観光協会内)
締め切り 8月28日(月)

まちの可能性を拡(ひろ)げたい!一般社団法人 SHIPS(シップス)を立ち上げ

海岸や港の魅力化、アート、受け入れ施設の管理運営、フリーペーパー発行、商品開発、デザイン制作、広報PRプランニング、行政業務の受託…

～今まで見えていなかった白老の新しい魅力、新しい技術やサービスを～

町地域おこし協力隊2年目の山岸奈津子さん。白老は「空港、高速道路、JR、都市部が隣にある立地のいい町」「人口もまだこれだけいるんだぞ、という手ごろな規模」「ウポポイがある」「水資源が豊か」「人がいいし、ごはんがおいしい」などと、可能性の大きさを実感。それらの魅力や可能性を拡げることができたら - と、法人「SHIROAI PROJECTS:通称SHIPS(シップス)」を立ち上げました。大手リゾート会社で長く企画を担当、その後さまざまな企業・団体の広報PRに携りキャリアを積んだ後、白老町の協力隊に就任した山岸さんがたどりついた結論でした。山岸さんは既に、白老港近くの古民家を手に入れ、学生やクリエイターなどが滞在する交流拠点づくりや遊漁船の活用にも着手、月刊フリーペーパー「百舟(ももふね)」の発行と始動しています。「舟を出しました。私がやろうとしていることをいつでも説明させていただきます。応援、協力、叱咤激励をお願いします!」。



連絡は☎090-6995-8835、HP:<http://www.shiraoiprojects.com/>、Eメール:ships@shiraoiprojects.com

ようこそ!「とくいの銀行 白老支店」へ

お金の代わりに皆さんの「得意」を預かり お互いに引き出す

コミュニケーションの場を広げ、ワクワクする人のつながりをつくりたい

支店の受付窓口は大町商店街にあるcafé「結」と町社会福祉協議会。企画した「結」の田村尚華さん、喜納悠介さん(社協職員)、コミュニティナースの須貝夢乃さんらは「気軽に『とくい』を運用して交流を」と呼び掛けています。

預けられた「とくい」は、ギターが弾けます、話を聞きます、お菓子を食べる、パン作り、着物の話、おいしい煮物、ボタン付け、ジグソーパズル…と、「そんなに専門性が高くなくてもよく、ほんのちょっとした得意でいいんです」と、現在は多種多様な150件以上の楽しい「とくい」が預けられています。

とくいの銀行は、白老支店が全国で2店舗目、道内では初めてです。カフェを経営する田村さんが「こういうことができるんだよね」という日ごろのお客さんとの何気ない会話から「助け合いみたいにかかできないかしら」と常々思っていました。同銀行を創始した方と知人でもあることから、コロナ禍の静まりを見て、賛同した仲間たちと実現にこぎつけました。

預けたリストから引き出すイベントも既に3回ほど開催。各自の「とくい」の披露会、ボードゲームなどゲームを中心とした集い、認知症の勉強会などです。第4回の引き出しイベントは8月3日、「さんぼどものづくり」と題し開催。「とくい」を預け、「口座」を持っている人が対象ですが、海岸で流木などを拾い、ものづくりを行う予定です。田村さんらは「理想は個人、グループ同士のマッチングですが、私の得意は何かしらと、自分を見つめるきっかけにもなるのでは」と、さまざまな人の活動の場創出を目指しています。申し込み、問い合わせはcafé「結」(☎090-5439-4096)、町社協(☎82-6306)へ。



「とくい」の運用を呼び掛ける
支店長の田村さん